

宮 堂 遺 跡

—範囲確認調査報告—

例　　言

1. 本書は1993（平成5）年度に河合町教育委員会が実施した宮堂遺跡の範囲確認調査の報告書である。

2. 現地調査は、1994年2月21日に開始し、1994年3月31日をもって終了した。

3. 調査組織は下記のとおりである。

調査主体 河合町教育委員会

調査担当者 河合町教育委員会事務局 社会教育課 技師・吉村公男

調査参加者 岩田英之、中西靖男、中原光男、小林美佐子、中山采子、末廣春枝

調査事務局 河合町教育委員会事務局 社会教育課

　　教育長・吉田守 教育次長・藤川一昭 課長・西野宗次 係長・吉田昌泰

　　主事・山口登美子、木戸正人、五島 晃

4. 本書を作製するにあたり下記の諸機関ならびに諸氏のご指導・ご協力をいただいた。
ここに記して謝意を表する。

奈良県教育委員会、河上邦彦、宮原晋一（敬称略、順不同）

5. 写真は航空写真をワールド航測コンサルタント㈱が撮影し、遺構及び遺物写真は吉村
が撮影した。

6. 遺物の整理及び本書の作製は吉村、中山、小林、末廣があたった。

7. 図1は平成4年修正版河合町全図(1:10,000)、図2は平成4年修正版河合町全図(1:2,
500)をもとに作製した。

8. 本書の執筆・編集は吉村がおこなった。

本 文 目 次

1. はじめに

(1)調査の契機と経過 1

(2)位置と歴史的環境 1

2. 遺構 3

3. 遺物 5

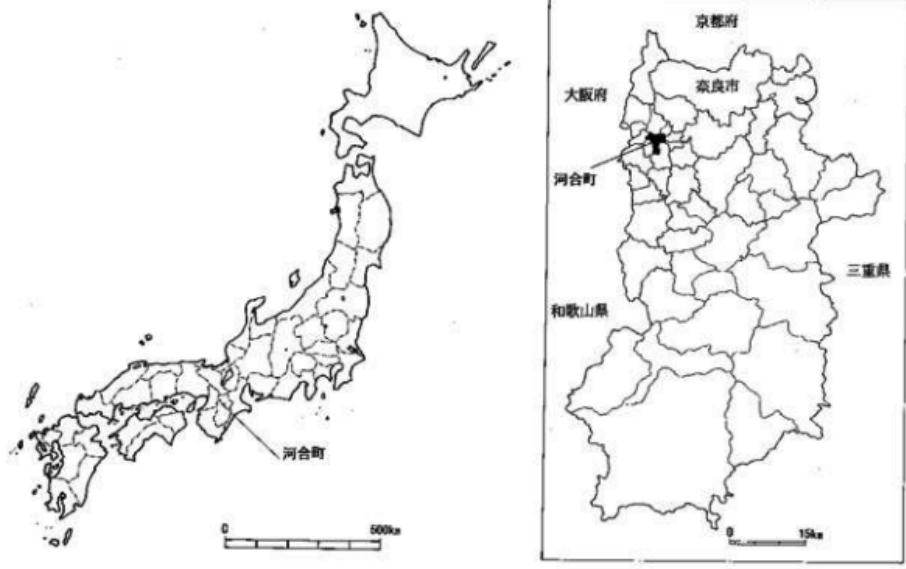
4. 結語 6

図 目 次

図1 宮堂遺跡とその周辺の遺跡分布図	1
図2 調査地位置図	3
図3 トレンチ土層断面図	4
図4 出土遺物	5

写 真 目 次

写真1 宮堂遺跡と川合大塚山古墳群・廣瀬神社	2
写真2 調査地全景（西から）	3
写真3 トレンチ全景（南から）	4
写真4 トレンチ全景（北から）	4
写真5 出土遺物	5



1. はじめに

(1) 調査の契機と経過

今回の調査は、平成5年度国庫補助事業として実施した範囲確認調査である。これまでに、宮堂遺跡の調査は、1979年に不毛田川改修工事に伴う事前調査として、奈良県立橿原考古学研究所により実施されている。この調査では、6世紀後半から7世紀にかけての竪穴住居跡3基等が検出されている。これらの竪穴住居跡は一時的な作業小屋のようなものと考えられ、集落本体は西側に展開するものと考えられている。また、1989年度に実施した河合町内遺跡詳細分布調査では主に不毛田川西岸付近で埴輪・土師器・須恵器・瓦などの遺物を多く採集している。

宮堂遺跡の北に所在する廣瀬神社に伝わる古繪図には、この宮堂遺跡にあたる部分に「定林寺」という大伽藍が描かれ、聖徳太子の建立と伝えている。また、明治期には礎石が露出していたという伝えもある。

このような状況から、遺跡の範囲と内容を確認し、今後の保護対策の基礎的資料を整えるために範囲確認調査を実施することとなった。調査は、微高地部分の西端に南北方向の幅1.5m・長34mのトレンチを設定し、人力により、掘削を行った。

(2) 位置と歴史的環境

宮堂遺跡は、大和川へ奈良盆地の多くの河川が合流する氾濫原低地の微高地上に所在する。この遺跡はかつて巨大な前方後円墳の痕跡とされたことがある。東側を除いて、微高地の周囲に幅50~70mの周濠状の地形が認められる。しかし、前方部にあたる部分は全く古墳らしい形状が残っておらず、曾我川等の旧河道と考えた方が妥当ではなかろうか。



図1 宮堂遺跡とその周辺の遺跡分布図（1:20,000）

宮堂遺跡の西側から北側にかけては5世紀後半から6世紀前半に築造された川合大塚山古墳・中良塚古墳・城山古墳などの8基の古墳があり、北側には廣瀬神社が鎮座している。廣瀬神社は『日本書紀』天武天皇条に廣瀬大忌神として廣瀬の川曲に祭られたとあり、大和川右岸の竜田の脛神と並んで廣瀬の水神として広く崇敬を受けてきた神社である。社伝では崇神天皇期の創建と伝えているが、恐らく7世紀以前に神社の母体となる信仰があったものと考えられ、大塚山古墳群との関わりも考慮しなければならないだろう。この廣瀬神社の西側、城山古墳の北側に現在の定林寺があるが、この場所には本来は廣瀬神社の神宮寺があった。現在の定林寺には平安時代後期の地蔵菩薩立像をはじめ、多くの仏像が伝えられているが、これらの仏像と建物の規模や構造は整合性を有していない。これらの仏像はもと宮堂遺跡の場所にあった定林寺に安置されていたものであり、16世紀の戦乱により定林寺が焼失したおりに神宮寺に移したとされている。また、宮堂遺跡の南西約800mには聖徳太子建立と伝える長林寺がある。発掘調査の結果、伽藍がほぼ整ったのは7世紀後半と考えられる法起寺式伽藍配置の寺院であることが確認されている。

宮堂遺跡は、これまでの発掘調査と分布調査から古墳時代以降の大規模な遺跡であることが予想される。採集されている遺物や伝承から、川合大塚山古墳群が築造されている期間に並行する集落や、7世紀以降の寺院があった可能性が高い。



写真1 宮堂遺跡と川合大塚山古墳群・廣瀬神社（上が北）

2. 遺構

今回の調査では顕著な遺構は検出できなかった。現状の地盤高は約40.60mであり、耕土（1層）はほぼ一律に20cmの厚みをもって広がっている。耕土の下は畑の床土（2層）である。床上は南側



図2 宮堂遺跡調査地位置図



写真2 調査地全景（西から）

で約10cm、北側で徐々に薄くなり、途切れる部分もある。その下の3層は暗褐色土でよくしまった土層で、厚さは最大で75cmを測る。遺物は1層・2層・3層の全ての層に含まれている。1層は比較的小量の遺物が含まれ、種類も瓦質土器・陶磁器など中近世のものが多い。2層・3層には多量の遺物が含まれており、下位ほど破片が大きい。ただし、2層・3層ともに遺物の種類に違いは見られず、埴輪・土師器・須恵器・瓦器・瓦・陶磁器がある。3層の下の4層は、トレンチ北端で一部を確認しただけであるが、よくしまった暗灰褐色砂質土で、遺物は全く含まれず地山と考えられる。東から西に向かって緩やかに傾斜している。

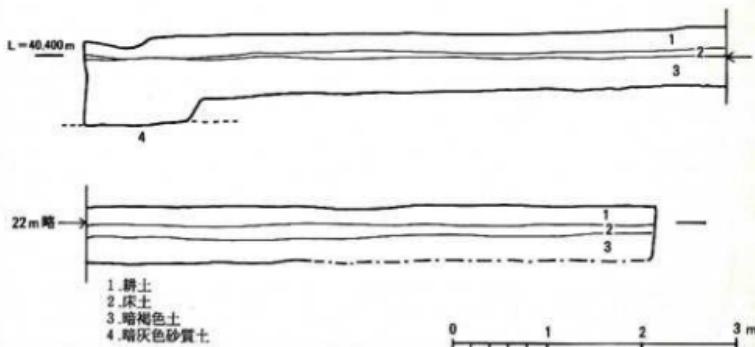


図3 宮堂遺跡トレンチ土層断面図



写真3 トレンチ全景（南から）



写真4 トレンチ全景（北から）

3. 遺物

今回の調査により出土した遺物はほとんどが細かい破片であった。遺物の種類は埴輪・土師器・須恵器・瓦・瓦器・陶磁器など多彩であるが、図示の可能なものを掲載しておく。

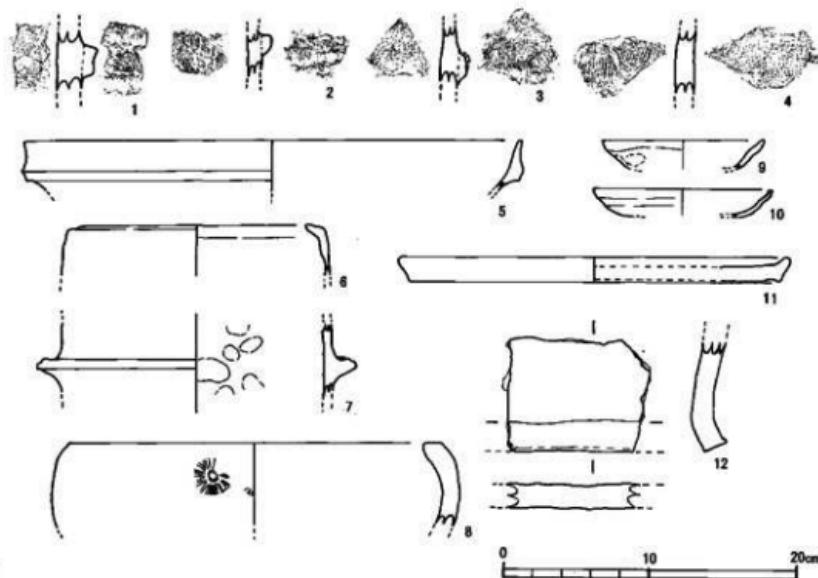


図4 宮堂遺跡出土遺物

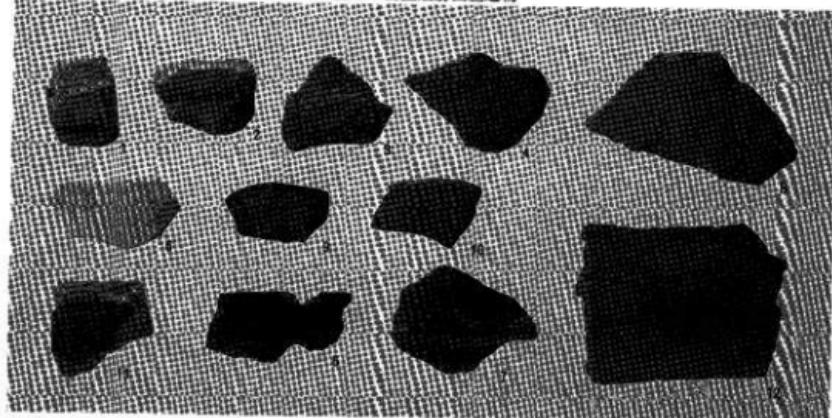


写真5 宮堂遺跡出土遺物

図4の1～4は埴輪である。いずれも円筒埴輪の破片と思われ、1～3は凸帯部分で、4も凸帯に近い胴部である。1は厚さが17mmで、周辺の古墳の埴輪と比較しても非常に厚い資料である。調整は表面が磨滅しているため確認できない。2は内面はタテハケ調整を施しているが、外面はよく判らない。凸帯はやや細身で突出している。3は表面が磨滅しているため調整は観察できない。凸帯は稜が曖昧で簡略化したような作りである。4は外面がヨコハケ、内面はタテハケ調整である。いずれも小さな破片であるため細部は不明であるが大塚山古墳の埴輪に似た印象を受ける。

5は土鍋もしくは浅い炮烙か。口縁部の破片であり、外面の凸帯状の部分を境に上部はほぼ直立する。図上復元で口径約34.1cmを測る。外面上部に煤が付着している。

6は姥口型土釜の口縁部である。口径は図上復元で17.4cmとなったが、実際にはそれ以上であると思われる。土師質きめの細かい胎土であり、淡い橙白色を呈す。

7は土釜の胴部である。鉢部での図上復元の直径は21.8cmで、小型である。鉢の端面の大部分は磨滅しており、一部分の観察から幅を図上復元しているが、さらに広くなることも考えられる。また、鉢部には全体に煤が付着している。

8は瓦質の鉢で、口径は図上復元で25.4cmを測る。口縁部近くに菊花文が施されている。

9・10は土師皿である。9は図上復元で直径11.2cmを測る。10は同じく直径12.2cmを測る。9は口縁部の内外面に煤が付着している。

11は瓦質の盤と思われるが、急な立ち上がりで復元すると炮烙や土鍋状のものに復元できる。図上復元での直径は26.8cmを測る。

12は瓦で、最大長9.7cm、最大幅7.9cmの破片である。厚さは1.7cmである。灰白色を呈し、きめの細かい胎土である。焼成は軟質である。

4. 結語

今回の調査では顯著な遺構は確認できなかった。しかし、包含層に含まれる遺物の量が多く、地山が東から西へ傾斜していることや、現地形の段差などを考慮すると今回の調査地より東側に遺跡の本体が広がっていると考えられる。ただし、包含層が厚いことから、遺構面が大きく削平されている部分もあると思われる。宮堂遺跡の中心部分は、今回の調査地の東側約50mの位置に南北に延びる吉野川分水よりも東側、不毛田川より西側の東西約100m、南北約130mの範囲であり、今回の調査地など西側部分は後世の開墾により畠地として広げられた可能性が高い。

遺跡の内容としては、冒頭でもふれたように、出土・採集している遺物や1979年の発掘調査の結果などから、古墳時代には大規模な集落があり、大塚山古墳や城山古墳などに並べられた埴輪の製作を行っていた可能性がある。古墳時代以降にも須恵器や瓦が多く散布しており、瓦を葺いた建物の存在が予想され、創建時期は不明であるものの伝承の「定林寺」が実際に存在したことと考えられる。宮堂遺跡の実像に迫る資料はまだまだ少ないが、その地理的条件や周辺の歴史的環境を考慮すれば、この遺跡が重要な遺跡であることは否定できないであろう。

河合町文化財調査報告

第1集	佐味田宝塚古墳	1986年
第2集	史跡乙女山古墳 付高山2号墳	1988年
第3集	長林寺	1990年
第4集	河合町遺跡詳細分布調査報告	1990年
第5集	高山3号墳	1992年
第6集	1991年度埋蔵文化財調査報告(市場垣内遺跡・史跡城山古墳)	1992年
第7集	穴闇～大型動物化石産出地内の発掘調査報告～	1992年
第8集	1992年度埋蔵文化財調査報告(長楽遺跡・フジ山古墳・川合大塚山古墳)	1993年
第9集	高山2号墳II・中良塚古墳(本書)	1994年
第10集	宮堂遺跡～範囲確認調査報告～(本書)	1994年

河合町文化財調査報告 第9・10集(合冊)

1994年3月31日

編集 河合町教育委員会
発行 奈良県北葛城郡河合町大字池部3
TEL 07455-7-0200
印刷 明新印刷株式会社
